

東京大学大学院理学系研究科化学専攻主催東京大学 / ソウル国立大学 / 台湾国立大学 三国間合同有機化学セミナーの報告

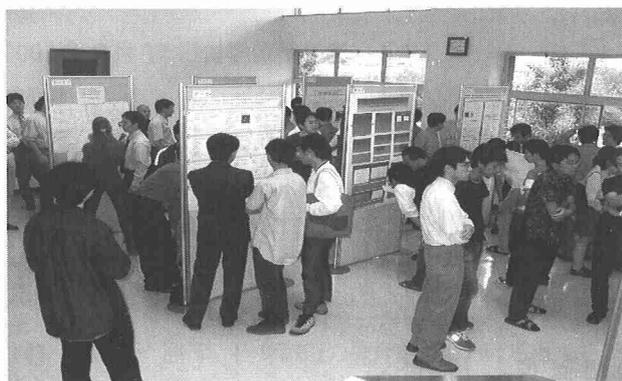
奈良坂 紘一 (化学専攻)

本学 (UT) とソウル国立大学 (SNU) との学科間協定に基づき、1992 年より本学理学部化学科とソウル国立大学化学科との間で、毎年合同セミナーを開催してきた。化学研究分野で、大学院生を含めた両大学間での国際交流を図り、化学教育と研究活動における情報交換と相互刺激の場を設けることを目的に、物理化学、無機分析化学、有機化学の化学3分野で交代しながら、ソウルと東京とを交互に会場として行っている。今年度はその一環として、有機化学をテーマに本専攻がホストとなり、合同セミナーを開催した。また今年度から、新たに台湾国立大学 (NTU) 化学科が加わった。本事業は、理学系研究科の間接経費による国際交流計画のひとつとして行われ、本研究科からの資金援助により国外から参加した教官および大学院生に援助を行うことができた。

開催日 平成 14 年 9 月 14 日 (土)
 開催場所 東京大学大学院理学系研究科
 化学本館 4 階 1404 号室 他
 組織委員 奈良坂紘一 (組織委員長)、中村栄一、川島隆幸、橘 和夫、市川淳士 (事務局)



講演会場



ポスター会場

発表者として、ソウル国立大学より教官 4 名と大学院生 4 名、台湾国立大学より教官 2 名と大学院生 2 名が来日し、これに本学側の発表者 (教官 2 名と大学院生 8 名) を加え、講演 8 件、ポスター発表 14 件が行われた。参加者は百人余りに登り、講演会場では立ち見もできるほどの盛況であった。既にこれまでの開催で実績が挙がっているように、相互の研究についての詳細な情報・意見交換による相互刺激に加え、各大学の若手研究者に「国際会議」での発表の機会を与え、次代を担う研究者の育成にも貢献できた。また、発表者以外の本学大学院生にも、「国際会議」への出席経験を与える絶好の機会となった。特に、ポスター会場では熱気に溢れる意見交換がなされ、さらにセミナー終了後も夜遅くまで議論が交わされた。

化学研究分野では、欧米にアジアを加えた三極構造を形成しつつある。従来、我国がアジアをリードしてきたが、近年韓国・台湾の成長も著しい。今年度から台湾の参加を得て日韓台の連携が実現し、アジアを化学研究における世界の一大拠点とするために大きな役割を果たすことができた。こうした観点から、理学系研究科の国際交流事業は高く評価され、次年度以降もその継続が強く望まれる。

仙台第一高等学校の生徒の訪問

比屋根 肇 (地球惑星科学専攻)

7 月の暑い日、仙台第一高校の山内先生とその生徒さんたちが私どもの実験室 (二次イオン質量分析計室) を訪問されました。訪問の経緯については必ずしも詳細に存じませんでしたが、高校生という、これから将来に大きな可能性を持っている人たちの訪問を受けることは喜びでもあり、すぐにお引き受けすることにしました。

高校生には内容がちょっと難しかったかも知れませんが、装置の説明をしたり、同位体の説明をしたり、また隕石中の鉱物粒子ごとの同位体組成の分析や年代測定を 10 ミクロンのスケールでおこなっていること、それにより太陽系形成時の出来事を理解しようとしていることなどを説明しました。私自身、このような訪問を受けた経験があまりなかったので、訪問してくれた高校生の期待に充分こたえることができたかどうか、少し心配です。また、時間的には比較的ゆとりがあったので、隕石の薄片試料を顕微鏡で見てもらおうとか、他にも興味を持ってもらえそうなことがあったように思います。事前に相手の高校生の興味関心などを聞いておくなど、もう少しコミュニケーションをとっておくとよかったかもしれないと思いました。

その後、7 月後半にオープンキャンパスで多数の高校生の訪問を受けました。そのときにはもう少しきちんと準備をしたつもりでしたが、こんどは時間が限られていた (移動時間を除くと我々の専攻では一研究室あたり 7-8 分しかなかった) ため、消化不良だった印象がありました。今後、高校生

などの訪問を受ける機会はふえるに違いありませんが、そのときには、できれば事前のコミュニケーションと、ある程度ゆとりをもった計画が必要だと感じました。

引率の先生から頂いたメール

東京大学理学部 浦辺先生、和達研究室、横山研究室、比屋根研究室、庶務掛室の皆様

先週7月3日にお邪魔した、仙台第一高等学校の山内です。

皆様方には、大変親切に、また丁寧にご案内いただき感謝申し上げます。

今回の研修は今年が初めての試みであり、私どもの準備も行き届かず、事前に十分生徒を指導しきれないままの実施となりました。生徒たちの中には、先生方の説明に難しさを感じて、正直退屈そうにしていた者もいたかと思えます。ご期待に添えられなかった点も多いかと思えます。申し訳ありませんが、準備不足という点に免じて、どうぞお許し下さい。中には、日本の最先端の知識、設備等に触れることができ、物理、生物、地球科学への興味を呼び起こされた者もいると思えます。生徒たちの感想がまとまったら、ぜひお知らせします。

今回の訪問を彼らの未来へ生かせるよう、期待しながら、私も日々の指導にあたりたいと思えます。(私は数学の教員なのです。)

なお、坂本先生にはさっそく訪問時に撮っていただいた写真をメールで送っていただきました。ご親切、本当にありがとうございます。生徒たちにプリントして渡します。

また、庶務掛の先生には、最寄の地下鉄の駅まで案内していただき、誠にありがとうございました。あつかましいお願いに快く応えてくださり、恐縮しています。お陰様で、次の訪問先へ間にあうことができました。よろしくお伝え下さいませ。

最後に浦辺先生、今回の訪問に際して、いろいろお世話いただきありがとうございました。気づかれたこと等ありましたら、遠慮なくアンケートのほうへお書き下さい。私どもも、今回の訪問の反省事項を整理して、次年度へ生かしたいと思えます。

東京から帰ってきて、校内の雑務に追われ、御礼を申し上げるのが大変遅れてしまいました。梅雨の季節で過ごしにくい毎日ですが、皆様方のご健康をお祈りします。

宮城県仙台第一高等学校 山内 佳子

平成14年度理学系研究科技術シンポジウム実施される

大城幸光 (原子核科学研究センター)

9月6日午後1時より、理学部旧1号館150号室において、「第19回理学系研究科技術シンポジウム」が開催された。このシンポジウムは、理学系研究科に所属する技術職員が日頃の業務や研究の中で得られた成果を発表する場で、毎年開催されており、今年で19回を迎えた。

はじめに、研究科長の佐藤先生の挨拶があり、引き続き各技術職員の発表に移った。今回は招待講演として原子力研究総合センターの江口星雄技術官に「メダカの微小重力実験」と題して講演をして頂いた。

スペースシャトル内での「メダカの産卵行動」の観察で、微重力でのメダカの挙動を撮影したビデオ映像には全員目が釘付けとなり、盛会であった。

また、天文学教育研究センターの土居守助教授による特別講演「天体観測用広視野カメラ」では、モザイクカメラやすばる望遠鏡等の解説、空の広い範囲の撮像による最も遠方の銀河の分布や超新星の発見等スケールの大きい、貴重な講演に深く聞き入った。

当日のプログラムは次の通りである。

発表

1. ネットワーク時代の事務処理
櫻村圭造 (物理学専攻)
2. 木曾 105 cm シュミット望遠鏡 2 KCCD カメラのフィルター交換機について
樽沢賢一 (天文学教育研究センター木曾観測所)
3. 絶滅危惧植物の保全 ～カワラノギクの自生地復元に関する考察～
根本正一 (附属植物園日光分園)
4. 博物館地理部門の最近の活動 2
栗栖晋二 (地球惑星科学専攻)
5. SF サイクロトン施設に於ける放射化した装置と遮蔽物の処理
大城幸光 (原子核科学研究センター)

招待講演

メダカの微小重力実験
江口星雄 (原子力研究総合センター)

特別講演

天体観測用広視野カメラ
土居 守 助教授 (天文学教育研究センター)

シンポジウム終了後、懇親会が行われた。近藤教授による乾杯の挨拶のあと、土居助教授、江口技術官を交え、和やかに歓談し、技術職員の親睦を深め盛會に終わった